

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 陸会	代表者	理事長 中沢 允	法人・事業所の 特徴	運営法人(昭和52年設立)は長野市と須坂市で高齢者中心の総合福祉事業を展開している。当時業者は「住み慣れた地域で あなたらしく いきいきと」を運営方針に掲げ、ご利用者、ご家族はもちろん、スタッフもいきいきとできる事業所を目指している。
事業所名	むつみ家いきいき	管理者	岡宮 拓哉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	2人	1人	0人	15人	0人	22人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の研修目標を立て、研修へ積極的に参加し、介護技術の向上や知識向上に繋げる。</li> <li>・職員の気付きに繋がるよう、ヒヤリハットの提出を続け、引き続き事故防止に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の研修計画を立てたが、新型コロナウイルスの影響により、外部の研修が中止になる事もあったが、一部の職員は希望する研修に参加することができた。</li> <li>・ヒヤリハットの提出が増え、職員の気づきに繋がったが、内容が重複するものも多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やヒヤリハットへの対策が有効であったか(同様の事故等が減ったのか)の検証などもしていただき、会議で報告するのもいいのではないか。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で、制限はあるかと思いますが、引き続き対応をお願いしたい。</li> <li>・希望の研修することながら、他の研修にも興味を持って参加できることを願います。</li> <li>・ヒヤリハットの提出が増えたのは、それだけ気づきができ、考えることができている。まずは、ヒヤリハットを提出する習慣がつけば良いのではないか。</li> <li>・ヒヤリハットは職員みんなで共有し、取り組むしかないのでは。</li> <li>・自己評価の設問の内容が現実的ではないと感じた。介護現場に沿った内容に修正するべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内外部の研修へ積極的に参加し、介護技術の向上や知識向上に繋げる。</li> <li>・事故やヒヤリハットの提出だけではなく、対策が有効であったのか等を職員会議やミーティングで再度話し合う場を作る。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた空間の中で、利用者一人一人にとって居心地の良い空間とは何かを考え、環境整備等の改善をはかる。</li> <li>・視察時間を7月、11月、1月の会議で設け、現場の状況を理解してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの環境整備に取り組む、家具やベットの配置について検討し、改善できたところもある。リビングにベットが配置されており、プライバシーの面で課題が残った。</li> <li>・視察時間は新型コロナウイルスの観点から、実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察時間を設けられることを望みます。</li> <li>・視察を行っていないので詳細は不明だが、プライバシー保護を図れるよう、お願いしたい。</li> <li>・限られたスペースの中、リビングの環境整備に取り組んでいる姿を拝見した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察時間を7月、11月、1月の会議で設け、現場の状況を理解してもらう。</li> <li>・リビングの設えや環境整備に取り組む。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス案内や事例、事業所内の活動内容等を含んだパンフレットを作成し、地域に回覧する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌を地域へ回覧することができた。事業所内での活動を地域の方に知ってもらえる、良い機会になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の地域回覧は、住民が事業者の活動を知る良い機会となったのではないか。</li> <li>・この時期の活動、広報共に大切であり、引き続き、取り組みの継続をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の地域回覧は継続して取り組み、地域の方への情報発信をする。</li> <li>・事業所内の活動やサービス案内等のパンフレット作成に着手する。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活かした、利用者個別の外出支援を担当者が中心となり、継続する。新たな地域資源も探っていく。</li> <li>・地域行事へは、事業所からも進んで参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で、個別の外出支援は行えていない。今後、どのようにして個別の外出支援に繋げるか、課題が残った。</li> <li>・地域行事は中止になることが多かったが、保育園や小学校との交流は少人数での参加とし、継続できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の外出支援等は、皆で工夫検討をお願いしたい。</li> <li>・地域の小学校、保育園との交流は双方にとって、とても良い機会となつてのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式を取り入れ、利用者個別の外出支援を行う。</li> <li>・地域行事、小学校や保育園との交流は継続して参加する。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議に出席している委員から、地域の情報を聴く機会を定期的に設け、会議を活性化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスのため、書面で開催することが増え、地域の方から直接話を聞く機会が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書面開催は、やむおえないのではないかと。</li> <li>・直接、顔をみて話ができる大切さを痛感した。</li> <li>・新しい生活様式に対応した、取り組みをお願いしたい。</li> <li>・書面だとなかなか難しい部分もあるが、決まった項目の意見を求めるだけでなく、具体的に聞いてみたい事等を投げかけてみてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今般のコロナ感染を受け、会議内容（書面開催含む）のありかたについて見直しを実施する。具体的な事例等を上げながら、会議の活性化を図り、住み慣れた地域での生活が続けられるサポート体制に繋げる。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の消防計画及び洪水避難計画等を踏まえ、より具体的な災害対策マニュアルを整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今般のコロナ渦による予防対策の徹底により、具体的なマニュアル作成には至らなかったため、次年度への継続課題とする。</li> <li>*具体的な改善計画内容については、左記同様とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害はいつ発生するか分からない。マニュアル作成は至急に取り組むべきだ。また、内容に問題があれば訂正すればよいのではないかと。</li> <li>・利用者、職員を守り、大切な役割を果たす事ができる施設として存続できるようにしてほしい。</li> <li>・地域との関わりの中で、どのような協力体制がとれるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の消防計画及び洪水避難計画等を踏まえ、より具体的な災害対策マニュアルを早急に整備する。</li> </ul>